



1862年遣欧使節がナポレオン3世に謁見した時の図

# 開港のひろば

NEWS YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

- 編集・発行／横浜市総務局横浜開港資料館 横浜市中区日本大通3丁231 電話 045(201)2100 企画室内
- 発行日／昭和57年9月1日
- 印刷／神奈川新聞社

新資料紹介

## フランス週刊紙『イリュストラシオン』について

開港資料館では、日本と歐米諸国との外交関係の展開、貿易の開始のみならず、文化の交流においても横浜を窓口として経由して行なわれたという歴史的な経緯から、海外の関係資料を多く蒐集しています。本誌では、このうち最近蒐集しましたフランスの新聞を紹介いたします。

創刊号では、江戸時代から明治時代にかけて欧米人が書いた横浜及び日本に関する貴重な資料として「ブルーム・コレクション」と

「ドン・ブラウン・コレクション」の蒐集、同時にアメリカやイギリス政府の公文書をはじめ宣教師や

商社の資料も蒐集していることを紹介しました。本誌を見てこれら

の資料の利用が日増しに多くなっています。

今回は、居留地で刊行された外字新聞に対し、同時代に本国（外国）で刊行された新聞の蒐集を望んでいたところ最近になって入手が実現しましたのでその概要を紹介することになります。

『イリュストラシオン』の概要

今回蒐集しましたフランスの週刊誌『イリュストラシオン』は、一八四三年にパリで創刊され、その後百年以上の永きにわたって刊行されました。廃刊は一九四四年、第五二九二号でした。翌一九四五

年からは『フランス・イリュストラシオン』として再出発しています。開港資料館では、この『イリュ

ストラシオン』として再出発していま

早い例としては、一八六一年（文

久二年）の日本が初めてヨーロッ

日本に関する記事の紹介

事件についての記事が中心となっています。発行部数は一九〇〇年頃で約九万部、一九三九年に二〇万部、また第一次大戦中には四〇万部も発行していく、週刊紙として割合に大きな新聞であったと言えます。

資料館には海外新聞として他に、イギリスの『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』（絵入りロンドンニュース）があります。この新聞もイラストを特徴とした新聞で、幕末・明治の日本がヨーロッパの人びとにどのように紹介されていったのか、そしてその見かたがどのように変わつていったのかを知るのに、大変貴重な資料といえるでしょう。

バに遺わした訪問使節の一行についての紹介です。マルセイユに到着したばかりの侍たちが、まるまる一ページを使ったイラストに描き出されています。ちゃんと着物などは、それまで見たこともない風俗なので描写にとまどいをおぼえたのでしょうか、みょうな具合に描かれています。記事では服装が大変簡素であること、物静かで落ち着いていることが特記されています。また文明の利器、汽車に乗るのをこがっているようすを見て、線路に飛び降りたりするのでは、とも心配しています。

日本についての記事は、日本とフランスとの関係が近くなるにつれ、しだいに数を増していきます。七月末まで展示しましたフランスの諷刺画家ジヨルジュ・ビゴー（一八八五年～一八九九年在日）による特派員から寄せられたイラストや記事がみられます。内容は芸術・音楽・催し物など多彩ですが、その時々に各地で起つた事件についての記事が中心となっています。

ついでアメリカや中国にいる特派員から寄せられたイラストや記事がみられます。内容は文

章で、その時々に各地で起つた事件についての記事が中心となっています。発行部数は一九〇〇年頃で約九万部、一九三九年に二〇万部、また第一次大戦中には四〇万部も発行していく、週刊紙として割合に大きな新聞であったと言えます。

資料館には海外新聞として他の新聞もイラストを特徴とした新聞で、幕末・明治の日本がヨーロッパの人びとにどのように紹介されていったのか、そしてその見かたがどのように変わつていったのかを知るのに、大変貴重な資料といえるでしょう。



奈良本辰也氏



遠山茂樹館長

## 館長対談

### 奈良本辰也氏を迎えて

けたらと思うんです。

奈良本 資料館というのは、いま各地にできているんですね。京都市でも市中編集が終って、そこで集めた資料をもとに資料館を作っています。このように県史・市町村史で集めた資料で資料館を作っている。有名なのは山口県文書館ですね。資料整理はしっかりしていますし、誰が行つても自由に入れる。それに非常にサービスが行き届き親切ですね。ただこうした施設の中には、土曜・日曜が休館、開館時間は夕方四時迄といふのがある。これでは利用者は困ると思うんですね。

館長 私はやはり市民の利用を重視したい。そのためにも展示を行う一方で講座も開くという要素も備えているんです。

そこで、全国の類似施設を御覧になって、一般の人たち、市民にとって、こうした施設はどうあって欲しいか、気楽にお話しいただ

ます。研究者の利用も大切なんですねけれども、私はやはり市民の利用を重視したい。そのためにも展示を行う一方で講座も開くという要素も備えているんです。

館長 そこで、全国の類似施設を御覧になって、一般の人たち、市民にとって、こうした施設はどうあって欲しいか、気楽にお話しいただ

けることがあります。これは利用者は困ると思うんですね。

館長 開港資料館は土曜・日曜は開館し、月曜は休館です。展示の入館は午後四時までですが、閲覧の方は土曜・日曜日を除き午後七時迄入館できます。ところが難点は館員の負担がたいへんになります。奈良本 その問題はどうこの資料館をみてもそうですが、朝早くから来館する利用者は少いんで、それにはじめた惜置として時差出勤とかの方法を講じても良いのではないでしょうか。サラリーマンや大学生

に行けない人などが来れるようにして欲しい。これからの郷土史といふのは市民が掘り起してやるべきだと思うんです。

いま言つたような人はそんなに多くはないかも知れないけれども、そうした人の要望を満たすことが始まるのではないかと思うんですよ。こうした輪が広がつていくんじゃないかと思うんです。

歴史というのは、何も東京にあらんではなく横浜にあるんだといふこと、つまり横浜から歴史を組み立てていかなければいけない

日本史というのはわからないのじやないか、と思うんです。このように足元から日本史全体のことを考えしていくのでなければならない

と思う。

館長 歴史の研究は、専門の研究者に限られない、という特色があるわけで、特に地域を対象にしていくのは専門の歴史家では眼が届かないことが多い。

奈良本 この間、広島へ行って白滝山の観音という所へ案内された。そこには三千もの石仏があつたかなあ。その石仏の山を歩いて

見ると、クルスについているのが三つ四つあるんだ。どうしてこんなものを作ったんだろうと見てみると、文化・文政頃に活躍した相原善吉という、宗教を勉強した人がこの山へ入って作ったんだよ。そして弟子たちがぞくぞく

### 市民のための資料館を

### 遠山茂樹館長は本紙の創刊号

で「……横浜開港資料館は、何よりも市民のための、市民に利

用される施設であることをめざしています」と抱負を述べてお

られます。このことは数年前、

資料館設立委員となつた時、私が抱いた検討課題でもあります

た。

開館して約一年、時折り訪れる

資料館は特別展示をはじめ講演会・

講座の開催、絵葉書・パンフレットの発行など、市民

に親しまれる方向を模索しつつあるようです。二年目に入つて希望されるのはこうした資料情報のより一層の提供、公開といふことでしょう。



### 市民秘蔵の作品展を

そしてこれらを実現していくために、資料館運営への市民の参加がぜひ考えられなければなりません。まず、国立民族学博物館の「友の会」組織の

もう一案であります。あるいは閲覧室の管理についてボランティアの積極的活用が議論されてよいかもしれません。また、年に一度ぐらい市民秘蔵の作品を中心、「私の横浜展」を企画するのもおもしろいはずです。市民との関係を深める、より多くの機会を設けられる」とを期待しています。

資料館の書庫には「横浜」の生誕をめぐる数多くの貴重な資料が眠っています。その一つが発掘され、整理されるならば、市民の「横浜」への関心を

(元横浜開港資料館設立研究委員会) 中村 紀一

と押しかけて行くんだ。山は右健を傭るトップカンツテンカンの音でものすごいにぎわいを呈して牢獄に入れてしまう。そして出て牢獄もなくなつたんだ。その状態をみて、広島藩は何か百姓一揆の相談をしているのではないかと疑つて柏原を捕えられました。その状態をみて、広島藩の毒殺、自殺の両説がある。

これなんかは日本全体の歴史に直結すべき歴史なんだ。まさに日本の思想史としてあるべきものが地方に埋もれていて誰れも知らない。地方から発掘していくことが大事な例です。不受不施派の例もそうです。



横浜生まれの親日家であり、愛蔵のコレクションを横浜市に提供することによって、横浜開港資料館の生みの親の一人となつたボーラル・C・ブルーム氏がなくなられてから、はや一年になります。

氏は明治三一年の生まれ、日本・イスラムで教育を受けたのち、世界各地を旅行し、フランス・アメリカ・日本と三大陸にまたがる生活を送られましたが、その故郷はやはり日本であり、横

館長 そうそう。奈良本 そういう日本全体に連なるような史実はたくさんある。こういう貴重な史実があることを現地の人々は気づいていないことがあら。そういうことは講座をもつた研究会を開いたりすることで、地方史だけれども日本全体の歴史にとって大事なことでもあるといふことが明らかにされることがあるんだ。

館長 従来たどいわゆる中央の権力者の浮沈が重点の歴史であった。産業でも基礎的な地場産業などは一般的な経済史で扱つてないでしょ。生活とか文化などは地域

### 〔「ブルーム・コレクション」展 (8/1 ~ 10/31)〕

浜でした。スイスのジュネーブに遊学中「来る日も来る日も日本を思つていた」という少年の日のホームシックは、やがて日本探究の情熱となり、約六〇〇〇冊に及ぶ日本関係の洋書のコレクションとなつて結実しました。

今回の企画展示は、氏の一周年記念講演と貴重なお話をいただきあります。このコレクションを通じて西洋人のみた日本を知り、日本学発祥の地である横浜の文化的伝統を再認識しようと企画されたものであります。この展示に合わせてコレクションの目録第一集の刊行を行つほか、記念講座の開催なども予定しています。



### 講座の開催

常設展示のほか年四回の企画展示を計画していますが、本年度第一回目の「ジョルジュ・ビゴー」展が終り、第二回目として「ブルーム・コレクション」展を八月一日から十月三十一日まで開催しています。

### 展示の開催

資料館の八月から九月にかけてのおもな行事とその概要についてお知らせします。



(1) 横浜市史講座第一期(八月・九月) 分が開催されます。講師は遠山茂樹館長(8/7)・加藤祐三横浜市大教授(8/14・8/21)・丹羽邦男神奈川大教授(8/28)

### 出版等

九月中に資料館所蔵の「ブルーム・コレクション」の目録第一冊が刊行されます。第三分冊目で完結の予定。同コレクションは戸時代から明治時代にかけて歐米人が書いた横浜及び日本についての書物、居留地で発刊された外字新聞などです。

・小沢健志九州産業大教授(9/14)・金井圓東京大教授(9/11)・9/18)・小林功芳関東学院大助教授(9/25)です。幕末から明治にかけての横浜の歴史をさまざまな角度からお話していただく予定です。(2)横浜の古文書と歴史講座 市内旧家に保存されている古文書を題材にして江戸時代から明治時代にかけての歴史をお話していただく予定です。講師は林英夫立教大教授(9/1・9/2)・村上直法政大教授(9/3・9/7)・大口勇次郎お茶の水女子大教授(9/8・9/9)・圭室文雄明治大教授(9/10・9/14)・石塚裕道都立大教授(9/16・9/17)です。(3)資料講読会資料館所蔵の海外資料から横浜の歴史をみていく予定の講座で、十月から毎月第四土曜日に開催されます。講師は石井孝津田塾大教授です。

・小沢健志九州産業大教授(9/14)・金井圓東京大教授(9/11)・9/18)・小林功芳関東学院大助教授(9/25)です。幕末から明治にかけての横浜の歴史をさまざまな角度からお話していただく予定です。(2)横浜の古文書と歴史講座 市内旧家に保存されている古文書を題材にして江戸時代から明治時代にかけての歴史をお話していただく予定です。講師は林英夫立教大教授(9/1・9/2)・村上直法政大教授(9/3・9/7)・大口勇次郎お茶の水女子大教授(9/8・9/9)・圭室文雄明治大教授(9/10・9/14)・石塚裕道都立大教授(9/16・9/17)です。(3)資料講読会資料館所蔵の海外資料から横浜の歴史をみていく予定の講座で、十月から毎月第四土曜日に開催されます。講師は石井孝津田塾大教授です。



【展示】来日百年を記念しまして『ジョルジュ・ピゴー』展を七月二九日まで開催。八月一日からは当館所蔵の資料『ブルーム・コレクション』展を開催中。

【講演】開館一周年を記念し特別講演を行ないました(六月五日)。講師として歴史家の奈良本辰也氏、評論家の紀田順一郎氏のお二人を迎え、それぞれ「幕末と横浜」、「明治の群像」と題し多くの聴衆の参加を得て盛大に行なうことができました。

本年四月一日から七月三十一日までの間の資料館のおもな行事等の開催及び結果をお伝えします。  
おもな行事△展示・講座等▽

紀田順一郎「明治の群像」  
紀田先生は、九代続いた生糸の「ママつ子」。自らは、横浜原住民と名乗る。子供の頃、薄暗い納屋の中に入るとおびただしい数の古文書や古地図が目に付いた。これは何だろう、自分の祖先はいったい何か、という素朴な疑問は、やがて歴史への興味に移り変わつていった。

演題の「明治の群像」。明治とう時代のなかで、その代表的な人物を選ぶとなると、やはり近代を切り開いたフロンティアでなければならぬ。明治という時代を地名にたどるなら、辺境の開拓者

師)が講演されました。六月二七日には清水敷氏(ピゴー研究家)・川村善一郎氏(東京経済大学講師)が講演されました。

#### 【講座】内田四方藏氏(郷土史家)

を講師として「古文書を読む会」を毎週第一・第三土曜日と開催、また石井孝氏(津田塾大学教授)を講師に招き「原書に親しむ会」を毎月第四土曜日と開催しています。

#### 【調査研究】

本年度から三年が

にわたる「横浜開港史の調査研究」

が開始されました。開国・開港期

から明治期にいたる横浜の歴史を

ソフト面とハード面とから総合的

に研究します。ソフト面の内容は

江兆民、早矢仕有的、女性では津

田梅子、下田歌子、樋口一葉など

があげられる。

であったうつ、とも話す。さらび、事績を後世の人々に伝えたことも重要なポイントである。代表的人物には、福沢諭吉、北村透谷、中江兆民、早矢仕有的、女性では津田梅子、下田歌子、樋口一葉などがあげられる。

「幕末と最近の情勢がよく似ています」と奈良本先生は、のつけから興味深い話しを投げかけてきた。その幕末とは、天保元年(一八三〇)から明治維新に突入する僅か三十数年間ではあるが、まさに日本の黎明期であった。天保の

ハリス文書・居留地形成・内外貿易史・居留地文化の諸側面からの研究、ハード面の内容は臨海地区・市内土木遺構・プラントン・パーマー関係資料の予備調査です。

開館二年目という年は資料館の基礎固めの重要な年であると考え、資料収集・調査・研究、展示・講座・閲覧業務等に館員一同一生懸命がんばっております。ここに資料収集と調査研究は資料館の要として特段の熱意と常に新しい気持を抱きながらその基礎固めに専心しております。この充実に伴なつて展示、講座、閲覧の充実が期待されます。

このように自己研修等を行ない、今後とも努力していく所存であります。資料館に対するみなさまからのご意見やご注文等をいただき、さらに充実した資料館にしていきたいと考えております。資料館に



開港資料館の旧館と

の執務室、二階は副領事家族の居室、三階が日本人事務員等の居室として利用されています。

千坪で、一階は領事、副領事らありそですが、その由来など教えて下さい。(神奈川区・山本茂雄)

この建物は、もともとの土地にあった英國領事館が関東大震災で焼失した後、昭和六年に再建されたものを、昭和五十四年にわざる「横浜開港史の調査研究」が開始されました。開国・開港期から明治期にいたる横浜の歴史をソフト面とハード面とから総合的に研究します。ソフト面の内容は江兆民、早矢仕有的、女性では津田梅子、下田歌子、樋口一葉などがあげられる。

「幕末と最近の情勢がよく似ています」と奈良本先生は、のつけから興味深い話しを投げかけてきた。不安な世相に拍車をかけた。その幕末とは、天保元年(一八三〇)から明治維新に突入する僅か三十数年間ではあるが、まさるよう、様々な事件が起こった。乱世は、まさに現在の日本と同じだ。奈良本先生が長年言い続けてきたことである。

こうした時代に活躍した「幕末の志士」たちの生きざまや主な事件を通しての時代背景。奈良本史学とも言つべき、社会史的・経済史的分析を持ちながらも、話しの途中に登場する人間には常にあたたかい血を通わせ、現在と比較論評しながら歴史的事件を説明する語り口は、聴衆を最後までグイグイ

奈良本辰也「幕末と横浜」  
前、文化・文政時代には、江戸の華やかな時代がまだあり、まさかそれから數十年後に徳川幕府が崩壊するとは、当時の人々は予想だしきなかつたことだろう、と話す。ところが天保に入り、諸国の大作から飢饉が始まり、各地に一揆

がつした人物を数々のエピソードをおひませ、多角的な視野から展開させる人物論は、情報整理学にも造詣の深い紀田先生ならではであった。

このように自己研修等を行ない、今後とも努力していく所存であります。資料館に対するみなさまからのご意見やご注文等をいただき、さらに充実した資料館にしていきたいと考えております。資料館に